

稲・大豆作情報 (NO. 3)

1. 水稲作況情報田の生育概況 (7月14日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 c m	茎 数 本/m ²	主稈 出葉数	葉色 SPAD	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/17 18.5株/m ²	本 年	48.3	329	8.8	39.7	7月2半旬は、平年より高温・多 日照、降水量は平年並みで経過し ている。 ◇平年と比べ、 草丈：「夢しずく」、「さがびよ り」は平年並み、「ヒヨクモチ」 は低い。 茎数：「夢しずく」、「ヒヨクモ チ」は多く、「さがびより」はや や少ない。 主稈出葉数：「夢しずく」は平年 並み、他は平年より遅れている。
		平 年	47.7	285	9.0	40.8	
		平年比	(101)	(115)	(-0.2)	(-1.1)	
さがびより 小城市芦刈町	6/20 16.7株/m ²	本 年	40.7	308	8.2	38.0	
		平 年	42.5	332	9.2	40.9	
		平年比	(96)	(93)	(-1.0)	(-2.9)	
ヒヨクモチ 小城市牛津町	6/28 19.6株/m ²	本 年	26.1	234	7.1	40.0	
		平 年	29.5	199	8.0	40.9	
		平年比	(89)	(117)	(-0.9)	(-0.9)	

注1) 各品種 前作：麦 注2) 施肥及び病虫害防除は地区基準に準ずる

注2) 平年値は、過去10年間(H24~R3)の平均値

◆農業試験研究センター米づくり情報3号 7月15日(抜粋)

移植日	項目 品種	年 次	草 丈 cm	茎 数 本/m ²	葉 齢 L	葉色 SPAD	概 況 (平年と比較して)
平 年	45.0	328	9.0	38.0			
平年比(差)	98	94	+0.6	+0.2			
ヒノ ヒカリ	本 年	38.7	444	9.1	41.5		
	平 年	39.6	443	9.2	40.5		
	平年比(差)	98	100	-0.1	+1.0		
6月20日	さが びより	本 年	38.6	349	9.1	40.6	
		平 年	39.2	330	9.0	41.2	
		平年比(差)	98	106	+0.1	-0.6	
	ヒヨク モチ	本 年	35.0	701	9.5	42.6	
		平 年	36.1	562	9.5	41.8	
		平年比(差)	97	125	±0.0	+0.8	

注1) 耕起概要等は前号参照。

○生育概況

7月2半旬は平年より高温・多日照で推移したことで生育は順調に進んでいる。「夢しずく」の茎数は平年よりやや少ないが、生育は進んでいる。「さがびより」、「ヒヨクモチ」は分けつの発生は旺盛で、生育は平年並みとなっている。情報田のさがびよりは、平年より苗の葉齢が1枚少なかったため、葉齢が遅れている。麦ワラ腐熟によるガス湧き、スクミリンゴガイの食害により分けつの発生が遅れている圃場が散見される。

2. 水稲管理

分けつが遅れている圃場が散見される。適正な水管理を行い、有効茎の確保に努める。

○水管理 ～ 時期に応じた水管理の徹底 ～

- 今後、大雨の予報も出ているため、深水とにならないよう浅水管理・間断灌水を徹底し、分けつ促進を第一に管理する。
- ガス湧きが確認されている圃場は、1～2日落水→数日浅水管理→1～2日落水を繰り返し、土壌の急激な還元化を抑制する（目安としては、落水後、田面に軽くひび割れがみられるようになったら入水）。
- スクミリンゴガイの食害被害も水位管理不良田、圃場凹部で確認されている。浅水にして貝の活動抑制を行うと共に薬剤防除を実施する。

- 有効茎が確保できている圃場では、中干を開始する（目安は右表を参考）。中干しは、軽い亀裂が入り足跡がわずかにつく程度とする。

品種	目標 穂数 本/㎡	有効茎数（中干し時期）	
		50株/坪 (15.2本/㎡)	60株/坪 (18.2本/㎡)
夢しずく	360	24本/株	20本/株
さがびより	370	25本/株	21本/株
ヒヨクモチ	440	29本/株	24本/株

○除草剤 ～ 節水栽培などで、雑草が発生してきたところは、早めの対策を～

- 雑草の生育（葉齢）に注意し、中後期除草剤による早めの対策を講じる。

対象	除草剤名	使用時期	備考
ヒエ類	クリンチャー 1 ㌔粒剤	移植後 7日～ R° I 4L 但し、収穫 30 日前まで	湛水散布（3～4 日は湛水）
	クリンチャー EW	移植後 20 日～ R° I 6L 但し、収穫 30 日前まで	落水散布。展着剤加用。
	ヒエクリーン 1 ㌔粒剤	移植後 15 日～ R° I 4L 但し、収穫 45 日前まで	湛水散布（3～4 日は湛水）
広葉雑草	バサグラン粒剤	移植後 15 日～55 日 但し収穫 60 日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。 最低 3 日間入落水しない。
	バサグラン液剤	移植後 15 日～55 日 但し収穫 50 日前まで	高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。
ヒエ類および広葉雑草	クリンチャーバス ME 液剤	移植後 15 日～ R° I 5L 但し収穫 50 日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。 最低 3 日間入落水しない。 高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。（展着剤無加用）
	ハイカット 1 ㌔粒剤	移植後 15 日～ R° I 3.5L 但し、収穫 60 日前まで	湛水散布（3～4 日は湛水）
	フォローアップ 1 ㌔粒剤	移植後 15 日～ R° I 5L （稲 4 葉期以降） 但し、収穫 60 日前まで	湛水散布（3～5 日は湛水）
	ワイドアタック SC	移植後 20 日～ R° I 6L 但し、収穫 30 日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。（展着剤無加用）

○病害虫情報

- ・今年のトビイロウンカは、現在のところ6月25日頃と7月8日の2飛来が確認されている。
- ・7月14日現在、平坦圃場でトビイロウンカは確認していないが、移植時期や品種によっては飛来・定着している可能性があるため、今後それぞれで発生状況を注視する。
- ・農業技術防除センターより7月14日に発信された発生予測図は右図のとおり。なおこの発生予測図は随時更新されるため、以下に示すホームページで最新情報を確認ください。

農技防 HP 参照：病害虫情報

<http://www.pref.saga.lg.jp/kiji00368010/index.html>

暫定防除時期 (7/15 現在)

1回目 8/7~8/11

2回目 8/21~8/27

※移植が早い早生品種地帯では、必ず現地での発生状況を確認し、6/25 飛来虫の第二世代幼虫中心に防除を検討する。

今年は、植え付け時期などで、地域によって、飛来波の定着状況が異なる可能性があるため、必ず現場での発生状況を確認し、防除時期を判断する。



トビイロウンカの発生予測図 (7/14 発表)

3. 大豆管理 ～圃場条件が整い次第播種を～

○圃場準備 ～ 耕起は水分の低い時に、大雨・長雨予報の時は無理しない！～

- ・荒起は、圃場が乾くのを待ち、播種前日～当日に行う。
- ・天候が変わりやすい場合には、無理に荒起こしはせず、1工程で浅く耕起して播種する。

○播種

- ・**種子消毒**：紫斑病や腐敗防止および発芽率の向上のため、必ず実施する。
- ・**播種量** 今後は、栽植密度を増やし、収量の確保に努める。

播種日	栽植本数 ㎡あたり	栽植様式 条間×株間×1株本数	播種量 (kg/10a)
7月16～25日	18本	75×15×2	5.3

・播種深度

土壤水分が高い場合や播種後2～3日以内に降雨が予想される時→2cm程度の浅め 鎮圧しない
播種後に晴天が続く場合は、4～5cm前後の深めにして鎮圧をおこなう。

・除草剤

播種前)「ラウンドアップ」「プリグロックス」など茎葉処理剤の散布において、風の強い日の散布は周辺
水稻へ影響が大きい(場合によっては枯死まで至る)、厳禁！ 必ず避ける。

播種直後) 土壤処理剤を散布し、雑草防除を行う。特に、近年問題となっているホオズキの発生が多い
圃場では、「ラクサー乳剤」が効果的である。播種直後の散布でも、隣接圃場の水稻へドリフト
防止のため風速と風向き等に注意し、風が強い日には散布しない。

※アサガオについては、多発すると大豆の作付け自体が困難になるため、見つけ次第手で抜き取る。
※すでにアサガオ類が多発している圃場では、トレファノサイド乳剤の全面土壤混和处理(播種前に200
～300 ml/10a 散布→速やかに荒起→播種)で密度を減らすことができるため、土壤処理剤や大豆
生育期除草剤、中耕・培土と組み合わせた防除を実施する。

